

平成28年度 北海道滝川高等学校定時制課程 年度末反省会議資料(組織運営・管理職・各教科)

| 領域 | 番号 | 目標 | 本年度の具体的方策 | 評価平均 | 分掌平均 | 達成度評価 | | | 分掌・係としての達成度評価についての自己分析 | 達成のための取組方法の改善や開始時期について |
|--------------------------|----|------------------|---|------|------|-------|------|------|--|--|
| | | | | | | Aの個数 | Bの個数 | Cの個数 | | |
| 組織運営 | 1 | | 「学校教育目標」は、教育活動全体の指針として適切か。 | 3.6 | 3.3 | 6 | 3 | 0 | 学校教育目標は全体の指針として概ね適切である。 | 学校教育目標（自学自律・自尊惻隠・健康心）を柱として、指導の重点と学校経営シラバスに掲げた各事項の達成に向けて定時制の全教職員が一枚岩となって取り組む環境づくりが必要である。 |
| | 2 | | 信頼される学校づくりを推進することができているか。 | 3.6 | | 5 | 4 | 0 | 「信頼される学校づくり」は「ほぼ達成されている」という評価である。 | さらに定時制の活動をホームページ、プレス空知、市の広報誌等で積極的に情報提供するとともに、地域・家庭との連携を強める。 |
| | 3 | | 校務分掌や各係、委員会は適切に組織され機能しているか。 | 3.3 | | 3 | 6 | 0 | 各分掌や給食委員会・教育支援委員会・いじめ防止対策委員会等の委員会は各教員との連携のもと、有効に機能している。 | 各分掌や委員会の長を中心にそれぞれの組織の意義・役割と本年度の活動反省を踏まえ、さらにこれらの組織が教育活動に資するものとする。 |
| | 4 | | 教職員の相互理解のもと、協働する組織体として機能できているか。 | 3.2 | | 4 | 5 | 0 | 教職員の協力・協働体制はほぼ良好ではある。しかし、今後さらに協力体制を強めるために解決すべき課題もある。 | 職員室内等での職員間のコミュニケーションを密にするなど、協力・協働の体制をさらに強める。 |
| | 5 | | 課題を解決し、教職員としての専門性を向上するための研修体制は充実しているか。 | 2.7 | | 2 | 7 | 0 | 職員の服務規律については、飲酒運転防止・交通安全、個人情報の管理、体罰・信用失墜行為の未然防止等適宜研修を行っているが、学習指導・授業力向上については、管内研修等に参加出来ない教員も少なからずもいる。 | 校内研修計画を確実に実行するとともに、各教科の管内研修・外部研修の積極参加推奨により充実を図る。 |
| | 6 | | 教職員の健康管理や福利厚生について配慮された職場環境となっているか。 | 3.3 | | 6 | 3 | 0 | 超過勤務はほとんどないが、職場環境・健康・福利等の面でさらなる配慮が必要である。 | 個別の職員面談を適宜行うとともに、（全定合同）衛生委員会で課題の整理解決に取り組む。 |
| 管理職 | 1 | 効率的な校務処理と組織運営の促進 | 各分掌、学年、係との連絡調整に努め、学校運営の円滑化に資することができているか。 | 3.2 | 3.3 | 5 | 4 | 0 | 概ね良好な評価だが、分掌の各部長等の力量と人柄に支えられている部分が非常に大きい。 | 分掌の長をはじめ、個々の教職員とのケースに応じた報連相を密に行い円滑な教育活動の推進に努める。 |
| | 2 | 特別支援教育体制の充実 | 特別な支援が必要な生徒に対する指導体制を整える。 | 3.7 | | 6 | 3 | 0 | 中間反省で3.3だった数値がさらに3.7にまで上がっている。定期的に開催している教育支援委員会と特別支援パートナーティーチャー派遣事業を中心に支援・指導の体制は有効に維持されている。 | 教職員間の情報交換を密に行い、それぞれの生徒の状況や必要な支援についての情報共有に努める。また、パートナーティーチャーを活用し、校内での個別の支援・指導(学習・生活・進路等)体制をさらに強める。 |
| | 3 | 入学者増に向けた取り組みの充実 | 保護者や近隣の中学校に対し、本校の教育活動について周知できているか。 | 3.2 | | 5 | 4 | 0 | 夏季休業期間中に市内等5中学校、学期間休業中に中・北空知地区中学校を訪問し定時制の教育活動をPRした。また、11/9(水)に学校説明会を行い、中学生4名、保護者2名、教員2名の参加を得た。 | 今後、2次募集や2次募集後の募集に向け、さらに中学校との情報交換を密にする必要がある。また、プレス空知や市の広報誌などの有効活用を図る。 |
| | 4 | 校内ネットワーク環境の整備・充実 | 適切な文書管理や、そのための校内LAN活用の促進と機器整備を実現できているか。 | 3.1 | | 4 | 5 | 0 | 文書管理・校内LANの活用は概ね良好である。 | LAN活用については情報委員会等を通じて全日制と連携して継続推進する。今後とも機密管理について意識高揚を図る必要がある。 |
| 各教科 | 1 | | シラバスに基づいた指導・評価が実施されているか。 | 3.0 | 3.2 | 3 | 6 | 0 | シラバスは各教科とも確実に作成されている。 | 観点別評価を含めたシラバス活用の研修を教務部を中心に2月の職員会議時に実施する。 |
| | 2 | | 生徒に関心・意欲を持たせる、単元毎の工夫ができているか。 | 3.3 | | 2 | 6 | 1 | 個々の教員はそれぞれに授業の工夫・改善を行っている。全日教員との連携により工夫・改善を図る教員も多い。 | 実験・実習などは教員同士が互いに見に行ける雰囲気が出ている。今後さらに気軽に他の教員の普通の授業を見て評価し合える職場づくりに努めるとともに、生徒による学習評価表の授業評価を確実に授業に還元する。 |
| | 3 | | 生徒の理解を定着させる授業づくりができているか。 | 3.3 | | 2 | 6 | 1 | 個々の教員が授業時や始業前や放課後等に、生徒たちに個に応じた学習指導できめ細かく指導しており、達成度・数値評価ともに概ね良好である。 | 職員室の中で気軽に成功事例・失敗事例・工夫改善点を話せる職場づくりに努める。また、新しい教科教育手法についての情報提供に努める。 |
| | 4 | | 他教科との関連をふまえた指導ができているか。 | 3.1 | | 3 | 4 | 2 | 資格取得等を目指す学力向上講座の取組は良好である。また、理科・家庭科での連携した授業の取組が行われ、生徒たちにも好評だった。 | 学力向上講座での教職員間連携を維持・継続する。教科間の連携については、さらに推進に向けた雰囲気づくりに努める。 |
| | 5 | | 言語活動を意識した授業づくりができているか。 | 3.1 | | 1 | 7 | 1 | 教師と生徒あるいは生徒同士の対話的授業を展開している教員が多く見受けられる。 | さらに生徒の主体性を生かした実践について情報提供に努めるとともに、各教科で効果的に取り入れるよう努める。 |
| | 6 | | 授業における指導と評価の一体化を実現できているか。 | 3.4 | | 1 | 7 | 1 | 中間反省では評価平均が2.9であったが、今回は3.4と好転している。多くの教員が評価を意識した授業づくりができている。 | 最新の教育情報の提供を行うよう努めるとともに、授業力向上を含め外部の研修に積極的に参加するよう推奨する。また、今後校内研修でも取り扱うことを検討する。 |
| その他、分掌として他の分掌や管理職に求める事項等 | | | ・日々の玄関指導。始業前・放課後個別学習指導、きめ細かな生徒理解・生徒指導・進路指導と職員間の情報共有により、生徒たちが安心して学び育つ環境がととのっていると感じます。ぜひこうした状況を今後も維持強化していきたいです。 | | | | | | | |